

# 2021/東京オリンピック・パラリンピックで県勢が活躍

[令和3年]



8月6日、喜友名諒選手が「空手男子・型」で金メダルを獲得。



9月15日、喜友名諒選手(前列左から2人目)に県民栄誉賞が贈られました。



東京パラリンピック「陸上男子車いす」の2部門で銅メダルを獲得した上与那原寛和選手に県民栄誉賞が贈られました。

# 2022/3月29日 おきなわ工芸の杜開館

[令和4年]



沖縄空手会館の隣に整備された「おきなわ工芸の杜」



各工芸ごとに設置されたブース



展示室



開館記念式典のテープカット

# 2022/5月15日 沖縄復帰50周年記念式典

[令和4年]



レセプションの冒頭に行われた「古酒仕次の儀」=沖縄会場、沖縄コンベンションセンター



式典で披露された琉球舞踊=沖縄会場



新垣勉氏による国歌独唱=沖縄会場



式辞を述べる玉城デニー知事=沖縄会場



式典で披露された迫力の空手演武=沖縄会場



天皇陛下のおことば=東京会場、グランドプリンスホテル新高輪



式典に参加する関係者=東京会場



沖縄復帰50年のあゆみのパネル展示=東京会場



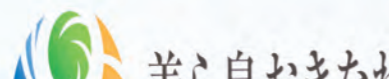
2千円札の両替ブース=東京会場

# 2022/10月22日～11月27日 美ら島おきなわ文化祭2022

[令和4年]



開会式で披露された「時代絵巻」=10月23日、沖縄コンベンションセンター



開会式に御臨席の  
天皇后両陛下

展示工芸品をご覧になる天皇后両陛下  
=10月23日、おきなわ工芸の杜



# 2022/10月30日～11月3日 世界のウチナーンチュ大会 6年ぶりに開催

[令和4年]



前夜祭パレードには海外から多くのウチナーンチュが参加しました。



県内アーティストが盛り上げた  
グランドフィナーレ



グランドフィナーレの  
アトラクションに歓声で  
応える参加者



### 世界的な視点で種を蒔いてほしい

株式会社りゅうせき参与  
第五代沖縄県知事

#### 稲嶺 恵一

いなみね・けいいち

1933(昭和8)年、中国大連に生まれる。慶應義塾大学経済学部卒。いすゞ自動車勤務を経て73年に帰沖。琉球石油(現りゅうせき)に入社し、86年に同社社長に就任。98年から06年まで沖縄県知事を2期務める。現在、りゅうせき参与。旭日重光章受章(08年)。

復帰前は東京で会社勤めをしており、復帰後の販売体制を整えるために沖縄に駐在していたことがありました。また、復帰2年前の国政選挙で国会議員になった父(稲嶺一郎・元参議院議員)の手伝いでも帰省することがありましたので、当時の沖縄の状況は鮮明に覚えています。返還のあり方をめぐる県民同士の対立が次第に激化していくのを、複雑な思いで見ているのです。

沖縄や政府は復帰を機に二次産業の誘致を積極的に展開しましたが、ほぼ実現することはありませんでした。製造業の構造というのはピラミッドのようなものです。その

頂点を支える受け皿としての蓄積が、当時の沖縄には全くなかったんですね。

経済も政治と同様に、一番大切なことは種を蒔くこと。蒔かない種が咲くことはありません。沖縄には地理的優位性がありますから、世界的な視点でどの種をどう蒔くのか。経済界のみならず沖縄自身の知恵が問われています。

九州・沖縄サミットはG8首脳が訪問先の市民と接した最初のサミットだと記憶していますが、翌年の9・11を機にその交流は途絶えました。対立というのは悲しいこと。あれから約四半世紀、平和な時代にまた戻ることを願っています。



### すべての人に届く報道を

昭和女子大学名誉教授・名誉理事  
沖縄放送協会(OHK)初代会長

#### 川平 朝清

かひら・ちようせい

1927(昭和2)年、台湾に生まれる。米ミシガン州立大学大学院卒。琉球放送(RBC)など勤務を経て、67年に沖縄放送協会(OHK、現NHK沖縄放送局)会長に就任。NHK退職後の92年に昭和女子大学英文科教授に就任し、現在は同大学名誉教授・名誉理事を務める。

復帰前、日本政府が先島諸島に整備したテレビ施設の運営を琉球政府に任せるとの話があり、それなら官営の放送局を開設しようという話が持ち上がりました。私は当時民放の放送局に勤める身でありながら「それは違う。官営放送はあってはならない」と主張し、沖縄にも本土のような公共放送協会を作ってはどうかと提案しました。それがOHKの設立につながったわけです。私の兄・朝申は「沖縄には娯楽と情報と教育の面でラジオが必要だ」と米軍を説得して1949年に「琉球の声放送」(現琉球放送)を設立していましたので、OHKを通して彼の夢を沖縄全体で実

現できたことはうれしかったですね。

現在のメディアで気になることは、駐留米軍らに向けた発信がないこと。制約があるのかもしれませんが、これもメディアの責任の一つだと考えています。自衛隊の活躍に対する報道も少ないですね。心情的に分らないわけではありませんが、もっと発信してもいいのではと思います。

近年は活字と電波の融合が進んでおり、今や私たちはスマートフォンを通して手のひらに情報を持っています。メディアに携わる若い人たちには、この分野で大いに力を発揮してもらいたいですね。



### 今の時代だからこそお笑いが大事

劇団でいご座座長  
喜劇役者

#### 仲田 幸子

なかだ・さちこ

1932(昭和7)年、那覇市に生まれる。56年に夫で役者・脚本家の仲田龍太郎と「劇団でいご座」を旗揚げ。喜劇の女王、として絶大な人気を誇り、97年に沖縄県文化功労者表彰。2019年の引退公演後は「仲田幸子の店」(那覇市久米)で活躍。

私は15歳で初舞台を踏んだので、今年で芸歴75年になります。復帰前から県内各地を巡業で回り、1日4回公演というのもよくありました。あの頃はとても景気が良かったですね。お客さんの笑いがエネルギーになるし、逆に反応が良くない日は一晩中眠れないこともありました。

復帰の頃も相変わらず景気が良く、一時は沖縄に30くらいの劇団がありました。カラーテレビが出てきてからはみんな辞めていきましたけど、うちの劇団はどこに行っても大人気。県の仕事で南米を回ったりもしました。

でいご座はきちっとした台本を作らずに、お客さんの反応

を見ながらアドリブを交えてやっていました。客席に若い人が多い時は「今日は共通語でやるよ」と団員に指示するものだから、上手く切り替えられない団員もいたりしてね(笑)。今は若手の芸人さんがたくさん活躍していますよね。台本はもちろん大事ですが、お客さんの反応を見てアドリブを交えたら、もっといい反応が出るかもしれません。

最近はあまりいいニュースがないですよ。だからこそお笑いが大事だと思っています。病気もあって芝居からは身を引きましたが、また舞台に立ちたいという思いは今でも強く持っています。



### 沖縄からノーベル賞受賞者を

元WBA世界ライトフライ級チャンピオン  
タレント

#### 具志堅用高

くしけん・ようこう

1955(昭和30)年、石垣島に生まれる。興南高校ボクシング部時代にインターハイで優勝し、卒業後は協栄ジムに入門。76年に世界王者となり以降13度の防衛に成功。戦績は24戦23勝(15KO)1敗。引退後は指導者として活躍するも、現在はタレントに専念。

復帰の年は高校2年生でした。毎日がトレーニングと下宿先である銭湯の風呂掃除の繰り返しで、復帰当日は銭湯に来るおじやおばあさんと「とうとう復帰したね」などと話したりしていました。7月に山形県で全国大会がありましたが、パスポートはもう不要だということで、その場で捨てて出発しましたよ。

1976年に世界チャンピオンになった時は、パスポートを持って東京に出てきた多くの先輩たちから「ありがとう」とお礼を言われました。「『沖縄人はすごいね』と言われて、胸を張って出勤できた」と。それを聞いて「沖縄のためにやる

しかない。オレは沖縄のためにがんばる」と、自分を奮い立たせました。

私の恩師で数多くのチャンピオンを育てた金城真吉さんは2017年に亡くなりましたが、その教え子に優秀なコーチが揃っています。これからも沖縄から世界チャンピオンが誕生すると思いますよ。また、沖縄には沖縄アリーナをはじめ素晴らしい施設が揃っていますので、世界戦などを沖縄で主催して県民全体で盛り上がってほしいですね。今度はボクが生きているうちにノーベル賞受賞者が出てほしいと思います。